



日本消化器癌発生学会

NewsLetter

<http://www.j-sgc.org/>

2008 No.1

第19回日本消化器癌発生学会準備報告

この度、第19回日本消化器癌発生学会学術総会を大分県別府市で開催させて頂きますことを大変光栄に存じますとともに、上西紀夫理事長をはじめとする関係の先生方に心より感謝申し上げます。会期は平成20年8月28日(木)、29日(金)、会場は別府亀の井ホテルです。本総会が学会会員の皆様にとって有意義な会となるべく、鋭意準備に努めております。

本学会では、基礎と臨床の双方の立場から、消化器癌の発生および進展に関する優れた研究成果が数多く報告されてきました。レベルの高い発表が保たれてきたのは、本学会の主旨である基礎と臨床の接点により融合してきたことが大きな理由であると思います。今回は敢えてテーマを限定せず、消化器癌に関する知見を幅広く応募していただきました。癌幹細胞やmicroRNAといった最先端の基礎研究成果から、消化器癌の新しい分子標的治療や消化器癌の発生および進展に関して示唆に富む臨床症例報告まで、さまざまな演題を採択させていただき、活発なご討議を期待しているところです。

本会では特に教育に重点を置き、モーニング・ランチョン・イブニングセミナーに加え、9題の教育講演を企画しました。最近のトピックを網羅するように企画しましたので、特に若い医師、研究者には良い勉強の機会になると思います。また、分子生物学的ツールの応用に関しては、先端技術の実際の研究への応用について企業が紹介するコーナーを企画しました。ご参加いただいた先生に、より有益な情報を提供できるものと期待しております。

学会のサテライト(特別企画)として、3つのことを企画しました。一つは大分県の中学生とその父兄を対象とした「夢を語る」と題した公開講座です。5名の先生に化学、宇宙、生物学、再生医療、教育のそれぞれの立場からご自身の夢を語っていただき、中学生に夢を与えて欲しいと願っています。二つめは高校生を対象とした企画です。新進気鋭の5名の教授に各高校に出向いて夢を語っていただくことで、高校生をおおいに啓発して欲しいと願っています。三つめはわれわれ最近疲れ気味の医師を励ます集いです。歌手の南こうせつさんが学会参加者に癒しの時を与えてくれます。学会はもとより、サテライト企画にもご家族ぐるみで参加していただき、是非楽しんでいただきたいと思います。



第19回日本消化器癌発生学会
会長 森 正樹 先生
(大阪大学大学院医学系研究科
消化器外科学教授、
九州大学客員教授)



目次

第19回 日本消化器癌発生学会準備報告	1
第18回 日本消化器癌発生学会総会報告	2
G-Project委員会報告	4
平成19年度 日本消化器癌発生学会評議員会 議事録(案)	4
第5回国際会議のご案内	6
役員・評議員名簿	10
JSGC Letter 編集後記	12

第18回 日本消化器癌発生学会総会報告

去る2007年11月8日、9日にウェルシティ札幌 厚生年金会館にて開催させていただきました第18回日本消化器癌発生学会総会におきましては、格別なご支援・ご協力を賜り、誠にありがとうございました。

お蔭様をもちまして、最多演題数と最多参加者数(291名)ということでご支援をいただき熱意あるご討論をいただき、実りの多い学術集会として無事終了することができました。「大腸癌の発生とpit pattern—denovo ca：Ⅲs pitを中心に—」との題目で特別講演を昭和大学横浜市北部病院消化器センター・工藤進英教授に賜りました。臨床に直結させた課題解決へ向けての医学と工学の融合による斬新な鋭敏で賢明な先端研究は、心が舞うような興奮を与えて下さいました。

慶應義塾大学医学部外科学教室・才川義朗先生による「臨床医の経験からみたがん治療の困難性—Cancer stem cell therapyを通して—」、帝京大学医学部附属病院外科・渡邉聡明教授による「最新の直腸癌治療—外科治療と化学放射線療法—」をランチョンセミナーとして賜り、そしてイブニングセミナーでは、埼玉医科大学臨床腫瘍科・腫瘍内科・市川 度先生による「胃癌・大腸癌化学療法における経口フッ化ピリミジンの役割」を賜ることができました。最新情報の提供をいただきました。

会長講演については「肝癌の基礎的・臨床的研究」とさせていただき、きわめて予後不良な固型癌であっても個別化医療により治療成績の向上が図られることを示唆させていただきました。

第18回日本消化器癌発生学会総会では、「“ステップを踏んだ”消化器癌制御を重視する研究と臨床の最前線」ということで、日々の地道な研究姿勢の重要であるとの意を込めて企画させていただきました。シンポジウムとして「消化器癌発生の基礎と臨床」、「消化器癌治療の新展開」、パネルディスカッションとして「消化器癌における免疫療法の基礎と臨床」、「消化器癌発生予防の新展開」、「消化器癌の進展と微小環境」、「消化器癌の浸潤・転移」、ワークショップとして「消化器癌分子標的治療の基礎と臨床」、「化学療法の基礎と臨床」、「消化器癌の予後因子」、「消化器癌研究の新展開」をとりあげ、それぞれにおいて、核心を突いた討論が展開され、将来への研究展開として若い研究者に課題を提供していただきました。一般演題におきましても、分子生物学、病理形態学、疫学、病態生理学、臨床医学などの広い視点から論議の提供をいただきました。これも偏に、先生方の絶大なるご支援の賜物と深く感謝しております。

さて、第18回日本消化器癌発生学会総会では本学会

会員のうち、45歳以下の優れた研究業績を提示した研究者の中から、消化器癌発生・進展・治療および予防に関する研究の発展を期待し得るご発表に対し、その筆頭者を表彰いたしました。厳格な審査の結果、最優秀賞受賞は九州大学生体防御医学研究所外科・三森功士先生、奨励賞受賞は広島大学大学院医歯薬学総合研究科分子病理学・大上直秀先生と大阪市立大学腫瘍外科学・八代正和先生が選考されました。3名の先生方に改めまして心からお祝いを申し上げますとともに、さらなるご発展、ご活躍を祈念申し上げます。また、惜しくも選考から漏れた先生方も少なくありませんでした。多くの先生方に選考対象者となつていただきましたことに御礼申し上げますとともに、一層のご発展を祈念いたします。

当方の不慣れから、不具合な点多々ございましたでしょうが、皆様方のご指導・ご協力によりまして、大きな支障を生じることなく会の運営ができましたことを重ねて感謝申し上げます。会員の皆様のますますのご活躍とご発展をご祈念申し上げますとともに、日本消化器癌



第18回日本消化器癌発生学会理事会出席者

後列向かって左より：平川 弘聖、小西 文雄、安井 弥、前原 喜彦、江角 浩安
前列向かって左より：今井 浩三、立松 正衛、上西 紀夫、平田 公一、森 正樹

発生学会の発展のため、今後ともなお一層のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

第18回日本消化器癌発生学会総会
会長 平田 公一

中外製薬

ロシュ グループ

5-HT₃受容体拮抗型制吐剤
劇薬、指定医薬品、処方せん医薬品^注

カイトリル
KYTRIL[®] 塩酸グラニセトロン製剤

^注 注意—医師等の処方せんにより使用すること
(R) F.ホフマン・ラ・ロシュ社(スイス)登録商標

薬価基準収載

注 1mg・3mg
点滴静注用 3mgバッグ
錠 1mg・2mg 細粒 0.4%

※効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意、用法・用量に関連する使用上の注意等については製品添付文書をご参照ください。
<http://www.chugai-pharm.co.jp>

(資料請求先)
製造販売元 **中外製薬株式会社**
〒103-8324 東京都中央区日本橋室町2-1-1

2006年9月作成

遺伝子組換えヒトG-CSF誘導体製剤
指定医薬品／処方せん医薬品^{*} (薬価基準収載)

ハイアップ[®] 注 25 100 50 250
Neu-up[®] for Injection 注射用ナルトグラスチム(遺伝子組換え)
25μg/IV, 50μg/IV, 100μg/IV, 250μg/IV
^{*} 注意—医師等の処方せんにより使用すること

■「禁忌」、「効能・効果」、「用法・用量」、「使用上の注意」等は製品添付文書をご参照ください。

製造販売元 (資料請求先)
協和発酵工業株式会社
東京都千代田区大手町1-6-1
<http://iyaku.kyowa.co.jp/>

06.06.

G-Project 委員会報告

大阪市立大学大学院腫瘍外科
平川 弘聖

癌の進行度病期分類にはTNM分類や本邦ステージ分類がありますが、同じステージでも予後に差が認められる場合があります。そこで、日本消化器癌発生学会ではG-Project委員会を発足し、TNM分類に加えて、癌の分子生物学的特性に基づく予後予測因子としてのG分類（悪性度マーカーによるMolecular Staging）の確立をめざしております。

これまで過去15年間で予後因子解析に関する約1,400の論文、文献データによるエビデンスの検証結果から、本邦でも症例数の多い胃癌では約50因子、大腸癌では約30因子の解析が行われており、その中で胃癌・大腸癌においては、癌抑制遺伝子であるp53の変異型p53発現症例、血管新生から血行性転移との関連のあるVEGF-A発現症例およびリンパ行性転移との関連が知られているVEGF-C発現症例が、いずれも予後不良であるとの報告でした。そこで、昨年第18回日本消化器癌発生学会総会時のG-Project委員会におきまして、この独立予後因子として報告の多かったp53、VEGF-A、VEGF-Cの3因子をTNM-GのG分類候補として選定し、その可能性の検証を行うことと決定しました。

課題名：TNM-G分類確立に向けての胃癌・大腸癌におけるp53、VEGF-A、VEGF-C発現による予後予測因子としての有用性の検証

実施計画内容：同じステージでも予後に差のみられるステージⅡ、Ⅲにしばり、予後の判明している胃癌、大腸癌の再発・無再発おのおの100症例（合計400症例）を

対象としたcase control studyとする。協力機関において、これらに該当する症例を抽出し、胃癌、大腸癌の切除標本から未染プレパラートを作成、症例ごとに番号化にて匿名化を行う。背景因子はまったくのブラインドとし、番号化未染プレパラートを広島大学分子病理学教室へ送り、同教室にてp53、VEGF-A、VEGF-Cの3項目の免疫組織染色を施行、その染色判定結果から、これまでのエビデンスの追試として、予後との相関を解析、検証する。**病理組織提供施設：**1) 大阪市立大学腫瘍外科、2) 金沢大学がん局所制御外科、3) 九州大学消化器・総合外科、4) 佐賀大学一般・消化器外科、5) 東京大学消化器外科の5施設

本研究は、日本消化器癌発生学会から将来のTNM-G分類確立をめざすため、同学会Gプロジェクト委員会の立案の下に行う多施設共同研究であり、実施内容ならびに倫理性に関しては、第18回日本消化器癌発生学会時の倫理問題検討委員会において審議の上、了承が得られましたが、各病理組織提供施設においても学内倫理委員会の承認を得た後に実施を行うことといたしました。現在、倫理委員会承認された施設から順次、症例抽出、標本作製ならびに免疫組織染色を開始しており、結果が判明次第ご報告させていただく予定です。

もちろん、この検証は本G-Projectの最初のステップであり、今後さらに胃、大腸以外の臓器も含め、その他のG分類候補因子により同様の検証を進める予定です。本学会から提唱するTNM-G分類による新しいがん治療体系の確立に向けて、本委員会を中心に検討をさらに進めてまいりたいと考えておりますが、是非会員の皆様にも今後ご協力をいただきますようお願い致します。

認を得て、決定される予定である。

・次期会長として森理事が承認されている。

・次次期会長に安井理事が推薦され、総会で承認を得、決定される予定である。

・現在、監事の人数は規約では2名とされているが、4名以内に変更することとなり、総会で承認を得ることとなった。

② 理事選考について次のとおり報告された。

・愛甲理事が監事として承認されている。

・理事として伊東文生評議員、桑野博行評議員、宮崎耕治評議員の推薦があり、本人に理事長から依頼することとなった。

③ 評議員選考について次のとおり報告された。

・新評議員として、北川雄光、菅井有、中山淳の3名を推薦した。引き続き総会の承認を得て、決定される予定である。

・今後、学会を活性化するために評議員を増員する案が出され、以下7名の推薦があった。池口正英先生、小川健治先生、工藤進英先生、後藤満一先生、篠村恭久先生、城卓志先生、渡辺聡明先生には理事長から直接依頼することとなった。

9) 編集委員会報告

① 事務局に投稿のあった論文について次のとおり説明された。

・2006年の総会で優秀演題として論文執筆を依頼した演題は14題、諾の返事が10題、その中で現在までに投稿のあった論文は6題で、事務局への一般投稿は2題である。

・進捗状況は2題が2006年Vol.71に掲載され、2題がreject、2題はカルガー社投稿済み、1題は著者修正待ち、1題は査読結果待ちである。

② 今後の契約について上西理事長とカルガー社の討議結果が報告された。

・これまで年額2,520,000円と高額だった提携基本料（会員特価購読料）を2008年は年間CHF10,400（約1,040,000円）とする。学会の評議員（104名）へのOncology誌オンライン版の無償提供も含むものとする。
・会費納入者に与えられていた年間購読権はなくなり、購読希望者にはオンライン版を年間購読料CHF42（約4,200円）の特価にて提供する。申込みも直接出版社にて受付けるものとする。

・投稿者は学会員であることを明記して直接出版社に投稿する。出版社は学会の代表者（Editorial Representative）に会員からの投稿を通知する。学会または投稿者はその論文に対する査読者（1～2名、内、少なくとも1名は学会の指定した者）を選択・指名して出版社に連絡する。

・頁超過料金無償サービスとして、会員はその投稿論文が規程の頁数（3頁以内）を超過した場合でも、超過料金を請求されないものとする。但し、年間1回までのサービスであり2回以上の投稿掲載の場合は2回目以降には通常の超過料金（超過1PにつきCHF290）が発生する。

10) 国際委員会報告

第5回国際会議は2008年9月初旬、会長Sir Nick Wright

（Barts and The London Queen Mary's School of Medicine and Dentistry）のもと、Oxfordで行われる予定であるが、まだ企画がなされていないため、翌日の委員会にて検討される旨、報告された。

11) G-Project委員会報告

今後の活動方針が次のとおり報告された。

・TNM-G分類確立に向けての胃癌・大腸癌におけるp53、VEGF-A、VEGF-C発現による予後予測因子としての有用性の検証を行う。

・広島大学病理の安井先生がブラインドで検討し、予後との相関を解析、検証する。

・病理標本提供は 大阪市立大学腫瘍外科、金沢大学がん局所制御外科、九州大学消化器・総合外科、佐賀大学一般・消化器外科、東京大学消化管外科の5施設より。
・背景因子はブラインドとし、p53、VEGF-A、VEGF-Cの3項目と今後の進展に向けての数項目を含めた免疫組織染色を施行し、その染色判定結果と予後との関連を検証する。

12) 倫理問題検討委員会報告

倫理問題について上記G-Projectについて検討されたことが次のとおり報告された。

・連結不可能、匿名化とする。

・各施設で倫理委員会を通す。

・残ったサンプルは破棄する。

・日本消化器癌発生学会倫理問題検討委員会としては倫理上問題ないものと確認した。

13) 在り方委員会報告

会費未納者リストが配付され、理事から納入を促していただくこととなった。翌日開催の委員会にて加えて検討することが報告された。

14) 財務委員会報告

・平成18年度収支決算書が承認された。平成19年度収支予算書（案）が承認された。

・平成19年11月より事務局が（株）クバプロに移行することとなり、予算に若干の変化が生じることが報告された。

15) 第17回学会総会（2006年）報告

第17回日本消化器癌発生学会総会は平成18年9月14日から15日にかけて愛知県がんセンター国際医学交流センターに於て開催された旨、報告された。

16) 第18回学会総会（2007年）報告

第18回日本消化器癌発生学会総会は平成19年11月8日から9日にかけて北海道厚生会館ウェルシティ札幌にて開催される予定であることが報告された。

17) 第19回学会総会（2008年）について

第19回日本消化器癌発生学会総会は8月28日から29日にかけ、大分県別府市、亀の井ホテルにて開催される予定であることが報告された。

18) 第20回学会総会（2009年）について

第20回日本消化器癌発生学会総会は9月3日から4日か10日から11日に開催される予定であることが報告された。

平成19年度日本消化器癌発生学会評議員会議事録（案）

場 所：ウェルシティ札幌厚生年金会館 鶴の間
日 時：2007年11月7日（水） 17：00～18：00

1) 開会の辞

2) 会長挨拶

平田会長から挨拶があった。

3) 理事長挨拶

上西理事長から挨拶があった。

4) 議事録署名人指名

砂川正勝評議員、田淵崇文評議員に依頼し、了承を得た。

5) 議事録承認

前回の議事録が承認された。

6) 庶務報告

会員の動向が次のとおり報告された。

2006年9月30日の会員数は813名であったが、新入会60名、退会131名の増減があり、2007年10月31日現在の会員数は742名である。

7) 会則委員会報告

今学会より学会賞が設けられ、規定について報告があった。

8) 役員選考委員会報告

① 役員について次のとおり報告された。

・寺野理事、北島監事の定年にともない両先生を名誉会員として、炭山評議員、竜田評議員の定年にともない両先生を特別会員として推挙し、各先生には引き続き本学会を支援していただくことになった。引き続き総会で承

第5回国際会議のご案内

Fifth International Society
of Gastroenterological
Carcinogenesis Conference31 August 2008-3 September 2008
Oxford, England

Dear Colleagues

The ISGC meeting, to be held in lovely Oxford, affords an opportunity to hear state-of-the science presentations, and to meet present and future leaders in gastrointestinal oncology from the laboratory to the bedside. Please plan on attending and submitting interesting abstracts. Poster sessions will be interactive.

Goal

The International Society of Gastroenterological Carcinogenesis is comprised of basic, translational and clinical scientists. This conference will afford an excellent opportunity for interdisciplinary discussions in a beautiful environment. In addition to the state-of-the-art science lectures, poster discussions and poster presentations will be encouraged.

Target audience

This conference will be beneficial to basic scientists, gastroenterologists, oncologists, surgeons, pathologists, and epidemiologists.

Call for posters

Abstracts may be submitted for the Poster Session, but must be received no later than 10 July 2008. Limit poster abstracts to one page, typed single-spaced on plain 8.5 x 11 inch paper. Organise the abstract into Purpose, Methods, Results, and Conclusions. Define all abbreviations, and provide three to five keywords describing the nature and content of the abstract. Please include the name of the conference, title of your presentation, author's full name, highest degree and institutional affiliation, telephone, fax, and email address of the contact author. The conference executive committee will select abstracts for poster presentation

Cover image courtesy of www.rossparker.com

on the basis of their scientific merit and content quality. The content of the abstracts will not be edited; however, the formatting will be altered to replicate that of the conference syllabus where it will be published. Free-standing, four-foot by eight-foot corkboards will be provided for displaying the poster. Abstracts should be emailed to Maria Caballero-Blaya at (m.caballero-blaya@qmul.ac.uk) by 10 July 2008.

Program Planning Committee



Nick Wright
London Research Institute, Cancer
Research UK, London, UK



Janusz Jankowski
Department of Clinical Pharmacology,
University of Oxford, UK



Marco Novelli,
Department of Pathology,
University College, London, UK



Ian Tomlinson,
London Research Institute, Cancer
Research UK, London, UK



Barts and The London
School of Medicine and Dentistry

Programme

Sunday 31 August

Arrival in Oxford

6-9pm Registration opens

6-8pm Reception in Keble College

Monday 1 September

8am Registration/Breakfast

9.10 am-9.45am

Presidential Lecture
Chair: Eiichi Tahara, MD PhD

Nick Wright MD PhD
Field cancerization in the gastrointestinal tract

Session 1

The nature of the problem, epidemiology,
Chairs: Januncz Jankowski MD PhD
Paul Moayyedi MD

10am-10.30am

David Forman PhD
Epidemiology of gastrointestinal cancer

10.30 am-11.30am

Paul Moayyedi MD
Helicobacter pylori in upper
gastrointestinal cancer

10:30 am-11am Break

Session 2

Stem cells, clonal evolution
and gastrointestinal cancer
Chairs: Tim Wang MD
Malcolm Alison PhD

Programme (cont)

4-4.30pm

Takanori Hattori MD
Recent developments in gastric cancer

4.30-5pm

Phil Quirke MD PhD
Pathological contributions to patient survival

5-5.30pm

Kay Washington MD
Molecular profiling in gastrointestinal cancer

5.30-7pm

Poster Session and Poster Discussion
Chairs: Jim Goldenring MD
Graeme Young MD

Tuesday 2 September

8.30-9.15am

Keynote Lecture
Chair: Nick Wright MD PhD

Makoto Mark Taketo, MD PhD
What animal models tell us about
gastrointestinal carcinogenesis

Session 5

Methods of prevention
Chairs: Nick Lemoine, MD PhD
Januncz Jankowski MD PhD

9.15-9.45am

Graeme Young, MD
The role of screening in cancer prevention

9.45-10.15am

Janusz Jankowski MD PhD
Prevention in Barrett's esophagus

11.30am-12pm

Timothy C Wang MD
The role of bone marrow in the
induction of gastrointestinal cancer

12-12.30pm

Malcolm Alison PhD
Stem cells in gastrointestinal carcinogenesis

12.30 pm-1pm

Simon Leedham MD
Genetic evolution in Barrett's esophagus

1-2 pm Lunch

Session 3

Pathobiology of Precancer
Chairs: Michio Kaminaishi MD PhD MD
Ian Tomlinson MD PhD

2-2.30pm

James Goldenring, MD
The metaplasia/dysplasia/carcinoma sequence

2.30-3pm

Ian Tomlinson MD PhD
New lesions from an old gene – Apc

3-3.30pm

Xin Wang PhD
The origins of liver cancer

3.30-4pm Break

Session 4

The pathology of gastrointestinal cancer
Chairs: Nick Wright MD PhD
Takanori Hattori MD

Programme (cont)

Session 8

New directions in the next decade
Chairs Eiichi Tahara MD PhD
Graeme Young MD

2.30-3pm

Nick Lemoine MD PhD
Gene therapy on pancreatic cancer

3-3.30pm

Roy Bicknell PhD
Can we inhibit tumour development
by blocking angiogenesis?

3.30-4pm

Markku Miettinen MD
GISTS – a paradigm for the future?

4-4.30pm Break

5-6.30pm

Poster Discussion
Chairs: Nick Wright MD PhD
Janusz Janowski MD PhD

7.30pm

Reception in the University Museum,
Parks Road

8.30pm

Conference Dinner, Keble College

Wednesday 3 September

Departure

Language of Conference: English

2pm-2.30pm

Thomas Brabletz MD
Epithelio-mesenchymal interactions in the
progression of colorectal cancer

Conference faculty

Malcolm Alison
Institute of Cell and Molecular Science, Barts and The London School of Medicine and Dentistry, London UK

Roy Bicknell
Molecular Angiogenesis Group, Cancer Research UK, Weatherall Institute of Molecular Medicine, University of Oxford, UK

Thomas Brabletz
Department of Visceral Surgery, University of Freiburg, Freiburg, Germany

David Cunningham
Department of Medicine, Royal Marsden Hospital, Sutton, Surrey UK

David Forman
Cancer Epidemiology Group, Centre for Epidemiology and Biostatistics, The University of Leeds, Arthington House, Leeds UK

James R Goldenring
Vice Chairman for Research, Department of Surgery, Vanderbilt University Medical Center, Nashville, Tennessee

Takanori Hattori
Chief, Laboratory of Department of Pathology, Shiga University, Seta Ohtsu, Japan

Ian Hart
Centre for Tumor Biology, Institute of Cancer and CR-UK Clinical Centre, Barts and The London School of Medicine and Dentistry, John Vane Science Centre, Charterhouse Square, London UK

Ernest Hawk
VP for Cancer Prevention and Head, Division of Cancer Prevention and Population Sciences UT MD Anderson Cancer Center, Houston, TX USA

Janusz Jankowski
James Black Senior Clinical Fellow, Department of Clinical Pharmacology, University of Oxford, UK

Michio Kaminishi
Professor and Chairman, Department of Gastrointestinal Surgery, The University of Tokyo, Graduate School of Medicine, Tokyo, Japan

Simon Leedham
Histopathology Laboratory, London Research Institute, Cancer Research UK, London, UK

Nick Lemoine
Centre for Molecular Oncology, Cancer Research UK Clinical Centre, Institute of Cancer, Barts and The London School of Medicine and Dentistry, London, UK.

Conference faculty (cont)

Markku Miettinen
Department of Soft Tissue Pathology, Armed Forces Institute of Pathology, Washington, DC, USA

Paul Moayyedi
Division of Gastroenterology, McMaster University Medical Center, Hamilton, Canada.

Phil Quirke
Pathology and Tumour Biology, Leeds Institute of Molecular Medicine, St James's University Hospital, University of Leeds, Leeds

Eiichi Tahara
Hiroshima Cancer Seminar Foundation, Hiroshima, Japan

Mark Taketo
Department of Pharmacology, Graduate School of Medicine, Kyoto University, Japan.

Ian Tomlinson
Molecular and Population Genetics Laboratory, London Research Institute, Cancer Research UK, London, UK

Timothy C Wang
Division of Digestive and Liver Diseases, Department of Medicine, College of Physicians and Surgeons, Columbia University, New York, USA

Xin Wei Wang
Head, Liver Carcinogenesis Section, LHC/CCR/NCI/NIH, Bethesda, Maryland

Kay Washington
Department of Pathology, Division of Gastroenterology, Vanderbilt Medical Center, Nashville, USA

Benjamin CY Wong
Professor, Department of Medicine, University of Hong Kong, Hong Kong, China

Nicholas Wright
Warden, Barts and The London School of Medicine and Dentistry, London, England

Wataru Yasui
Professor and Chairman, Department of Molecular Pathology, Hiroshima University – Graduate School of Biomedical Sciences, Hiroshima, Japan

Graeme P Young
Professor, Department of Gastroenterology, Flinders Centre for Innovation in Cancer, Adelaide, Australia

Hotel accommodation

• Expensive (£100+)

The Randolph Hotel, Beaumont Street, Oxford, OX1, Tel: +44(0)865 256 400 www.randolph-hotel.com

Malmaison Oxford, 3 Oxford Castle, Oxford, OX1 1AY, Tel: +44(0)1865 268400 www.malmaison.com

The Royal Oxford Hotel, Park End Street, Oxford, OX1 1HR, Tel: +44(0)1865 248432 www.royaloxfordhotel.co.uk

The Bear Hotel Woodstock, Park Street, Woodstock, Oxfordshire, OX20 1SZ www.oxtowns.co.uk/woodstock/thebear/

The Old Parsonage Hotel, No 1 Banbury Road, Oxford, OX2 6NN, Tel: +44(0)1865 310210 www.oxfordcity.co.uk/hotels/oldparsonage/

The Dashwood Hotel and Restaurant, South Green, Heyford Road, Kirtlington, Oxfordshire, OX5 3HJ, Tel: +44(0)1869 352707 www.thedashwood.co.uk

Bath Place Hotel, 4-5 Bath Place, Holywell Street, Oxford, OX1 3SU, Tel: +44(0)1865 791812 www.oxfordcity.co.uk/hotels/bathplace/

The Paramount Oxford Hotel, 2 Godstow Road, Oxford, OX2 8AH, Tel: +44(0)1865 489900 www.paramount-oxford.co.uk

• Moderate £60-100

Victoria Hotel, 180 Abingdon Road, Oxford, OX1 4RA, Tel: +44(0)1865 724536 www.victoriahotelo.co.uk

Vickers Hotel, 7 Market Place, Woodstock, Oxford, OX20 1SY, Tel: +44(0)1993 811212 www.vickershotel.co.uk

Parklands Hotel, 100 Banbury Road, Oxford, OX2 6JU, Tel: +44(0)1865 554374 www.oxfordcity.co.uk/hotels/parklands/

Express by Holiday Inn Oxford, Grenoble Road, Kassam Stadium, Oxford, OX4 4XP, Tel: +44(0)1865 780888 www.hiexpress.com

Burlington House, 374 Banbury Road, Oxford, OX2 7PP, Tel: +44(0)1865 513513 www.burlington-house.co.uk

Hotel accomodation (cont)

The Kings Arms Hotel, 19 Market Street, Woodstock, Oxfordshire, OX20 1SU, Tel: +44(0)1993 813636 www.kings-hotel-woodstock.co.uk

Falcon Private Hotel, 88-90 Abingdon Road, Oxford, OX1 4PX, Tel: +44(0)1865 511122 www.oxfordcity.co.uk/hotels/falcon/

University Club, 11 Mansfield Road, Oxford, OX1 3SZ, Tel: +44(0)1865 271044 www.club.ox.ac.uk

Four Pillars Hotel, Abingdon Road, Oxford, OX1 4PS, Tel: +44(0)1865 324 32 www.four-pillars.co.uk

Eurobar Cafe and Hotel – B&B, 48 George Street, Oxford, OX1 2AQ, Tel: +44(0)1865 725087 www.oxfordcity.co.uk

Red Mullions Guest House, 23 London Road, Oxford, OX3 7RE

The Sportsview Guest House, 106-110 Abingdon Road, Oxford, Oxfordshire, OX1 4PX, Tel: +44(0)1865 244 268 www.sportsviewguesthouse.co.uk

Marlborough House Hotel – B&B, 321 Woodstock Road, Oxford, Oxfordshire, OX2 7NY, Tel: +44(0)1865 311 321 www.marlbhouse.co.uk

Victoria House Hotel, 29-30 George St, Oxford, OX1 2AY

Linton Lodge – Best Western, 11-13 Linton Road, Oxford, OX2 6UJ, Tel: +44(0)1865 553 461 www.bestwestern.co.uk

Mercure Eastgate Oxford, The High Street, Oxford, OX1 4BE, Tel: +44(0)1865 248 332 www.accorhotels.com

Cotswold Lodge Hotel, 66a Banbury Road, Oxford OX2 6JP, Tel: +44(0)1865 512 121 Fax: +44(0)1865 512 490 www.cotswoldlodgehotel.co.uk

• Cheap <£50

The Tree Hotel, Church Way, Ifley, Oxford, OX4 4EY, Tel: +44(0)1865 775974 www.treehotel.co.uk

Registration information

On-site registration opens at 6pm on Sunday 31 August 2008 followed by a reception. The conference will begin at 8am on Monday 1 September 2008 and ends at 7pm on Tuesday 2 September 2008. Advance registration is encouraged

Registration fees
£200 – Established investigators
£100 – Post-doctoral researchers and graduate students

The deadline for advance registration is 4 August 2008.

There are four ways to register:

- Mail to: Warden's Office, Barts and the London School of Medicine and Dentistry, Turner Street, Whitechapel, London E1 2AD UK
- Fax to: +44(0) 207 882 7187
- email to: m.caballero-blaya@qmul.ac.uk

We accept the following forms of payment:

- Cheque (payable through UK banks only)
- Money order
- Credit cards (MasterCard, VISA, and American Express)
- Cash (on-site registration)

A receipt and confirmation letter will be sent to you within ten working days of receipt of your fee. The full conference registration fee includes the tuition, abstract book, breaks, lunches, receptions and dinners.

Refund/ cancellation policy

The registration fee, minus a £20 administrative handling fee, is refundable if a written request is received on or before 4 August 2008. No refunds will be granted after that date. Although no refunds will be granted after 4 August 2008, you may transfer your registration to a colleague.

Registration information (cont)

In case of cancellation, liability is limited to the registration fee. The number of participants is limited and we cannot responsible for any expenses incurred by an individual whose registration is not confirmed and for whom space is not available.

Special assistance

Contact the above points of contact if you have any special dietary or accommodation needs.

Accommodation

Please note that you are responsible for booking your accommodation.

- A block of rooms has been reserved for conference attendees at Keble College, Oxford
- The room rate for bed and breakfast in an en-suite room is £65 plus £11.05 VAT. We also have a limited number of standard rooms (bathroom shared between two rooms) at a rate of £45.50 plus £7.73 VAT, so the cost for lodging will be at £228 or £160 for the three nights of the conference
- Delegates can book and pay for accommodation at Keble via the website www.oxfordrooms.co.uk using the code LEICESTER and get a special rate
- Hotels in Oxford are available and a list is attached at the end of this flyer. Early reservation is recommended

Ground transportation

Oxford is easily reached from London or Heathrow and Gatwick airports by train and road. Participants arriving at Heathrow will find coach transport available. Taxis are available at Oxford station. Please contact the points of contact above if you need assistance

Oxford is an excellent centre for exploring the 'Heart of England'. It is close to Stratford and the Royal Shakespeare Company, the Cotswolds and of course London, and is an excellent place to plan a late summer holiday. Hope to see you there!

Affix Stamp Here

Payment details

Cheques must be in £ sterling made payable to Queen Mary, University of London.

- ☐ Credit Card (will incur a two per cent charge)
☐ Debit Card ☐ Cheque

Card details

☐ Visa ☐ MasterCard ☐ American Express

Card Number

Sort code

Security code

Expiry date

Issue No

Name of cardholder

Billing address (if different from above):

Signature: Date:

Warden's Office
Barts and the London School of Medicine and Dentistry
Turner Street
Whitechapel
London
E1 2AD
UK

Conference registration

Fifth International Society of Gastroenterological Carcinogenesis Conference
31 August 2008-3 September 2008

Please complete, detach and return the form below. Alternatively, contact the Wardens Office via email at events@qmul.ac.uk Please delete as appropriate

- ☐ I shall/shall not attend the reception on 31 August
☐ I shall/shall not attend the dinner on 2 September
(These are included in the registration fee)

Details

First name

Family name

Highest degree:

Institution:

Department:

Speciality:

Address:

Postcode:

Tel:

Fax:

Mobile:

email:

If you have special requirements, please detail below:

 **Barts and The London**
School of Medicine and Dentistry



For further information contact:
Maria Caballero-Blaya
Warden's Office
Barts and the London School of Medicine and Dentistry
Turner Street
Whitechapel
London
E1 2AD
Tel: +44 (0)20 7882 2262
Fax: +44 (0)20 7882 7187
email: m.caballero-blaya@qmul.ac.uk
www.smd.qmul.ac.uk

The information given in this brochure is correct at the time of going to press. The College reserves the right to modify or cancel any statement in it and accepts no responsibility for the consequences of any such changes.

役員名簿

理事長 上西 紀夫

理事 (19名)

井藤 久雄	伊東 文生	今井 浩三
江角 浩安	岡 正朗	上西 紀夫
久保田哲朗	桑野 博行	小西 文雄
菅野健太郎	田尻 孝	立松 正衛
平川 弘聖	平田 公一	前原 喜彦
宮崎 耕治	森 正樹	門田 守人
安井 弥		

会長 森 正樹

次期会長 安井 弥

監事 (2名)

愛甲 孝 小俣 政男

事務局幹事 (2名)

清水 伸幸 野村 幸世

名誉会員・特別会員名簿

名誉会員 (14名)

大原 毅 (名誉理事長)		
杉町 圭蔵 (名誉理事長)		
青木 照明	内田 雄三	小川 道雄
金澤曉太郎	北島 政樹	佐治 重豊
杉村 隆	曾和 融生	田原 榮一
寺野 彰	長興 健夫	二川 俊二
磨伊 正義	三輪 晃一	
恩田 昌彦 (故)	下山 孝 (故)	
長町 幸雄 (故)	長興 健夫 (故)	

特別会員 (23名)

朝倉 均	磯野 可一	岩永 剛
岡島 邦雄	冲永 功太	笠原 正男
木村 健	小西 陽一	斉藤 利彦
炭山 嘉伸	曾我 淳	高橋 俊雄
竜田 正晴	比企 能樹	平山 廉三
廣田 映五	藤田 力也	船曳 孝彦
武藤徹一郎	武藤 泰敏	安富 正幸
山川 達郎	渡辺 敦光	
馬場 正三 (故)		



評議員名簿

(110名)

愛甲 孝	上西 紀夫	嶋本 文雄	中森 正二	峯 徹哉
浅尾 高行	川口 実	清水 伸幸	中山 淳	三森 功士
油谷 浩幸	川又 均	下山 省二	名川 弘一	宮崎 耕治
池口 正英	北川 雄光	城 卓志	夏越 祥次	宮地 和人
伊藤喜久治	北台 靖彦	白水 和雄	西野 輔翼	棟方 昭博
井藤 久雄	工藤 進英	菅井 有	西森 英史	森 正樹
伊東 文生	國安 弘基	菅野健太郎	西山 正彦	門田 守人
今井 浩三	久保 正二	砂川 正勝	野口 剛	安井 弥
牛島 俊和	久保田哲朗	高橋 豊	野村 幸世	八十島孝博
内田 英二	熊谷 一秀	田久保海誉	秦 史壮	山口 明夫
宇都宮 徹	倉本 秋	竹之下誠一	服部 隆則	山本 博幸
江上 寛	桑野 博行	田尻 孝	馬場 秀夫	横崎 宏
江角 浩安	高後 裕	立松 正衛	平川 弘聖	吉田 和弘
太田 哲生	後藤 満一	田中 紀章	平田 公一	渡邊 聡明
大平 雅一	小西 文雄	田渕 崇文	藤井 茂彦	
岡 正朗	今野 弘之	塚本 徹哉	藤村 隆	
緒方 裕	澤田 鉄二	辻谷 俊一	藤盛 孝博	
小川 健治	塩崎 均	藤 也寸志	前原 喜彦	
落合 淳志	汐田 剛史	徳永 昭	松川 正明	
小俣 政男	篠村 恭久	富田 尚裕	松倉 則夫	
掛地 吉弘	島田 信也	豊田 実	松原 長秀	
加藤 俊二	嶋田 紘	内藤 善哉	真船 健一	
加藤 広行	島田 光生	永井 秀雄	三木 一正	
兼松 隆之	嶋田 裕	仲田 文造	源 利成	

(50音順)

フッ化ピリミジンの新分類

DIF

DPD Inhibitory Fluoropyrimidines

UFT, TS-1はDIFです。

抗悪性腫瘍剤 (代謝拮抗剤)

UFT

劇薬 指定医薬品 処方せん医薬品 テガフル・ウラシル配合カプセル剤
薬価基準収載 テガフル (腸溶)・ウラシル配合顆粒剤

UFT ユーエフティ® カプセル 100mg
UFT ユーエフティ® E顆粒

抗悪性腫瘍剤 (代謝拮抗剤)

TS-1

劇薬 指定医薬品 処方せん医薬品 テガフル・ギメラシル・
薬価基準収載 オテラシルカリウム配合カプセル剤

TS-1 ティーエスワン® カプセル 20
TS-1 ティーエスワン® カプセル 25

ユーエフティ、ティーエスワンの効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意につきましては製品添付文書をご参照下さい。

製造販売元 資料請求先 (医薬品情報室) **TAIHO** 大鵬薬品工業株式会社
〒101-8444 東京都千代田区神田錦町1-27
TEL. 0120-20-4527
<http://www.taiho.co.jp/>

JSGC Letter 編集後記

昨年の編集後記には、日本国内での地震・記録的な猛暑・台風などの自然災害のことを書かせていただきました。この春にはアジアの各地で大雨や地震による大きな被害が出ていて、自然の力の前では人間は無力だと痛感させられる日が続いています。その一方で、被害を拡大させたのは、人間による修飾であることも明らかになりつつあるようです。救援物資の分配が正常に行われない情勢や外見のみを優先させた建築により多くの犠牲者の出たことなどについて、断片的に耳に入ってくる情報からは、人間のやるべきことをきちんとやっていれば……と思わざるを得ません。そう考えると、自然の力の偉大さを受け入れつつも、自分たちにできることはきちんとやっておくという態度が重要なのだと再認識させられました。

さて、本年の第19回日本消化器癌発生学会総会は森正樹教授が別府の地で開催してくださいます。本会の第7回総会（会長：内田雄三教授、日本消化器癌発生研究会としての最後の総会でした）も大分で行われました。当時に比較すると自分達の周りの環境はずいぶんと変化しております。研究面でも臨床面でも、使用するものや手技の変化など、時代においていかれないよう頑張らなければと感じる毎日です。ただ、手技手法が変わったところで「研究のための研究」になることなく、根底に流れる「患者さんのために」という理念は変化がないように思います。大分県での本会総会開催を機に十数年前を思い起こし、新鮮な気持ちで今後の医学研究と医療に向かっていきたいものだと考えております。

学会事務局幹事 清水 伸幸

発行 日本消化器癌発生学会事務局
〒102-0072 東京都千代田区飯田橋3-11-15
UEDAビル6F 株式会社クバプロ内
TEL：03-3238-1689 FAX：03-3238-1837
発行者 日本消化器癌発生学会
編集 総務委員会
印刷 （株）愛甲社



指定医薬品・処方せん医薬品*
プロトンポンプ阻害剤

〔薬価基準収載〕

パリエット® 錠10mg
錠20mg

〈ラベプラゾールナトリウム製剤〉
*注意-医師等の処方せんにより使用すること

●効能・効果、用法・用量及び禁忌を含む使用上の注意等については添付文書をご参照ください。

製造販売元
エーザイ株式会社
〒112-8088 東京都文京区小石川4-6-10
<http://www Eisai.co.jp>

ヒューマン・ヘルスケア事業

商品情報お問い合わせ先：エーザイ株式会社 お客様ホットライン室
☎0120-419-497 9～18時（土、日、祝日 9～17時）

PT0702-11C 2007年2月作成